

## 館林七福神巡り山行報告

【山行日】2023年1月4日(水) 晴れ  
【集合】岩舟支所P AM 8:00  
【費用】マイカー1台 : 500円  
【メンバー】CL:鈴木ユ SL:大西、青柳、  
飯口、大塚、島田、清水、福島、福田夕、渡辺  
【コースタイム】岩舟支所 P8:00=茂林寺  
8:25/8:40=館林市役所 P8:55/9:00~長良神社  
9:25/9:35~尾曳稻荷神社 10:20~善長寺  
10:20/10:40~善導寺 10:55/11:10~ヤオコー  
11:15/12:15=館林市役所 14:20=普濟寺  
13:00/13:15=雷電神社 13:30/13:55=岩舟支所  
P14:20



毎年恒例の七福神巡りは、館林七福神巡りを計画した。岩舟支所駐車場を8時に出発し、最初の七福神「大黒尊天」が祀られた茂林寺へ向かう。茂林寺は館林市街を抜け、少し離れた所にあるので車で行くことにする。広い観光者用の駐車場に着くと車は無く、我々が一番乗りだった。トイレを済ませ参道を通り、山門



をくると大きなタヌキの焼物が出迎えてくれる。本堂でお参りを済ませ大黒尊天に向かうと丁度開けたところで、大黒天に手を合わせ一年間の幸福と財運をお願いする。七福神めぐりの色紙が売られていたが、誰も購入することなく駐車場に戻る。ここから車で館林市役所へ向かい、市役所前の駐車場に駐車する。駐車場を出て左に進み、県道佐野・行田線を北に向かい瀬戸谷交差点を左折し直進すると長良神社に着く。長良神社は恵比寿神が

をくると大きなタヌキの焼物が出迎えてくれる。本堂でお参りを済ませ大黒尊天に向かうと丁度開けたところで、大黒天に手を合わせ一年間の幸福と財運をお願いする。

七福神めぐりの色紙が売られていたが、誰も購入することなく駐車場に戻る。ここから車で館林市役所へ向かい、市役所前の駐車場に駐車する。

駐車場を出て左に進み、県道佐野・行田線を北に向かい瀬戸谷交差点を左折し直進すると長良神社に着く。長良神社は恵比寿神が



千秋記念子ども科学館」の芝生広場を横切り、「田山花袋記念文学館」の先を左折して尾曳稻荷神社に着く。赤い鳥居が立ち並ぶ参道を通り本殿にお参りする。幼稚園の子供たちで賑わっていたが、本殿の裏側に祀られた弁財天に、知恵と財福の恵みをお祈りする。ここから城沼沿いにウォーキングコースが整備されており、湖畔に付けられた遊歩道を東に向かって歩くと善長寺に着く。寺の前にテーブルとベンチがあり、コーヒーと菓子を食べておやつタイムを取る。



風が少しあったが陽射しが暖かく、コーヒーを飲みながら菓子をいただいた。善長寺は本堂の建て替え工事が終了し、大きく立派な本堂に建て替えられ境内も整備されていた。境内に寿老尊が祀られており、皆で延命長寿をお願いする。ここからさらに城沼沿いに東進し、広い駐車場の先を左折して善導寺の正門に回り込む。善導寺は和銅元年(708年)行基菩薩によって開創され、1300年の歴史を持つ名刹である。

又、天正18年(1590年)榊原康政公が館林城に赴任した折、榊原家の香華寺として百石を付与され、本堂裏の墓地には藩主榊原康政公の墓がある。本堂に参拝し勝負の神「毘沙門天」に、今年計画した山行の成就をお願いする。

ここからすぐ隣にあるスーパー「ヤオコー」に向かい、中にあるフードコートでランチをいただく。大きなテーブルの場所を確保し、各自食べたいものをオーダーしテーブルに戻ってくる。アジフライ定食のブザーが一番で鳴り、順次出来た順に食べ始める。食べ終わったらショッピングを楽しみ、12時15分にヤオコーを出発する。再び城沼に出てつつじ橋を渡って対岸に出て、南岸を西に向かって歩いて市役所に向かう。南岸には水鳥の観察所や、有名な「つつじが丘公園」がありとても楽しく歩ける。ツツジの季節には大混雑のつつじが丘公園も、人影は少なく無料で入園出来る。つつじが丘公園の先にも多目的広場が整備され、蠟梅



や梅の花が咲きだしていた。ふれあい橋を渡って対岸に出て、市役所駐車場に着き車で普濟寺に向かう。普濟寺は城沼の南側1Kmlに位置し、しだれ桜が有名な寺である。布袋尊が祀られており、予知と金運の神なので、今年も金運に恵まれるようお願いし普濟寺を後にして雷電神社へ向かった。雷電神社の裏側に駐車場があり、満車であったが丁度空いた場所に駐車する。本殿の裏側から入り、正面に回り込むと多くの参拝者で賑わっていた。本殿の彫刻がとても立派だったが、周りに植えてある蠟梅も満開で甘い香りが漂っていた。

参拝後記念写真を撮り、隣接する運動公園を一周

し、食べ過ぎたお腹を引き締める。雷電神社に戻り道路反対側にある神社の社務所に祀られた、福祿寿とナマズの雷電様を参拝する。福祿寿は不老長寿の神様なので、皆で無病息災・不老長寿をお願いし帰路についた。好天に恵まれ、歴史とご利益の参拝コースを楽しく巡ることが出来、2023年はコロナに負けず幸せな一年になると確信した。